



グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Summer 2014 Vol.15, No.3

「日米対話」開催さる 変容する国際・国内情勢の下での日米同盟

グローバル・フォーラムは、米国防大学国家戦略研究所 (INSS) との共催により、3月5日午後東京において日米対話「変容する国際・国内情勢の下での日米同盟」を開催した。当日は米国からジェームズ・プリスタップINSS 上席研究員等5名を迎え、神谷万丈日本国際フォーラム上席研究員等日本側参加者73名との間で、セッションI「米国要因と日本要因」とセッションII「アジア太平洋の安全保障環境」を通じて活発な議論を交わした。各パネリストの発言の概要はつぎのとおり。

米国要因と日本要因

- (1) **細谷雄一慶應義塾大学教授**：日本は、2013年に閣議決定した国家安全保障戦略 (NSS) で、(a) 積極的平和主義、(b) “first-tier nation”、(c) 人権や民主主義などのリベラルな価値、(d) 海洋国家、の4つの戦略的目標を打ち出した。
- (2) **ロバート・マニング／アトランティックカウンシル上級研究員**：米日同盟の課題は、(a) 日本が安心できるような戦略的安定性、(b) 日本が歴史修正主義的言動で自らの戦略的目標を阻害しない、(c) 印、豪、ASEAN、韓国を含めたネットワークづくり、の3つだ。
- (3) **伊奈久喜日本経済新聞特別編集委員**：尖閣諸島の領有権に対する米国の「ニュートラル」という立場に、日本は



挨拶をする神谷万丈議長 (中央)

- 不満である。米国はあらゆる領土問題について立場をとらないのが同国の政策だと言うが、北方領土問題では日本を支持しており、その表現は正確ではない。
- (4) **ニコラス・セーチャーニ米戦略国際問題研究所日本部副部長・主任研究員**：日本の集団的自衛権行使や武器輸出三原則の緩和などを含め、米日両政府が相互運用性 (interoperability) を高めることが重要である。
 - (5) **神谷万丈日本国際フォーラム上席研究員・防衛大学校教授**：米日両方にワイルド・カードというべき難題がある。日本側は安倍首相による歴史問題のハンドリングであり、米国側は一貫性を欠くオバマ大統領のアジア政策である。
 - (6) **ジェームズ・ショフ／カーネギー国際平和財団上級アソシエイト**：集団的自衛権の解釈や防衛大綱の見直しなどの安倍政権の努力を米国は評価する。それは地域のマルチな安全保障活動に関して、日本が米国のより大きなパートナーになれるからである。将来的にはこのアーキテクチャに中国を引き込みたい。

アジア太平洋の安全保障環境

- (1) **中西寛京都大学教授**：日米両国は、どのような形で日韓関係が安定的かつ重層的に制度化されるかということを考える必要がある。日韓関係のあるべき姿を再定義することが建設的である。現場・実務レベルでの協力に関する対話が重要であろう。
- (2) **ラスト・デミング元国務省首席次官補代理・元国務省日本部長**：米日同盟に対する懸念の一つは、米日間の信頼がなくなるのではないかとことである。日本は米国の指導力に対して、また米国は日本の歴史問題を巡る

言動と長期的戦略に対して、それぞれ疑念を抱いている。

- (3) **加藤洋一朝日新聞編集委員**：日米の指導者間には、expectation gap といふか、trust gapがある。また、日本は歴史問題を内政問題ととらえているが、米国は日韓関係の悪化により地域全体が不安定化することで、米国の地域戦略が傷つけられたと考えている。
- (4) **ジェームズ・プリスタップINSS 上席研究員**：米国が過去30年間取ってきた中国の関与と同盟管理の二本立ての戦略は、中国の経済成長と強化によって維持が難しくなり、中国が責任あるステークホルダーにならなくなる可能性がある。

- (5) **泉川泰博中央大学准教授**：日米両国に長期的視野に基づく台湾政策が欠けている。日本のシーレーンの一部である台湾海峡において、中台の更なる接近あるいは衝突というシナリオに対し、日米は注意深い議論を進め、政策調整の準備をしておくべきである。
- (6) **宮岡勲慶應義塾大学教授**：朝鮮半島統一後の統一朝鮮国家の選択肢は、(a) 対米同盟の維持、(b) 対中提携、(c) 朝鮮半島の中立化、(d) 朝鮮半島全体の核武装化、の何れかであるが、(d) が最悪の選択肢であり、韓米同盟は危機に陥り、地域が不安定化する中で、日本の核武装化も誘発されかねない。



会場で熱心に聴き入る参加者たち

議論百出から

グローバル・フォーラムのホームページ (<http://www.gfj.jp>) 上のe-論壇「議論百出」への最近3ヶ月間の投稿論文を代表して、下記論文を紹介する。

リベラルな国際秩序に向けて

慶應義塾大学教授 渡辺 靖

先月ロンドンでソフトパワーに関するセミナーに参加したが、国際秩序の行方に対する危惧を多く耳にした。もちろん、そこには緊迫の度を増していたクリミア情勢があった。欧米諸国にとって軍事制裁という選択肢はコストが高すぎる。経済制裁は、冷戦時代とは異なり、グローバルな相互依存が進んだ今日、喫緊の解決策にはなりそうもない。つまりハードパワーには限界がある。そうなると、例えば、ロシアへの国際世論の圧力を高める、あるいはロシアをG8から閉め出すといった、ロシアの魅力・信頼性・正統性、つまりソフトパワーを削ぐ選択肢しか残らないが、それにしても、プーチン

大統領が全く聞く耳を持たなければ、やはり限界がある。同じような状況が中国によって東シナ海や南シナ海において作り出されているのではないか。

参加者からはそうした危惧が多く聞かれた。「責任あるステークホルダー」としての台頭を期待していた中国やロシアなどの新興国が、むしろ現実には、「力による現状変更」を牽引していること、「法の支配」に基づくリベラルな国際秩序に対する無責任なゲーム・チェンジャーになっていることへの危惧である。こうした閉塞状況を打開するためにも、日本は米国と結束して、台頭する新興国をリベラルな国際秩序へと誘引しなければならない。(2014年4月2日付投稿)

最近3ヶ月間で注目されたその他の論文

- | | |
|--------------------------------------|-----------------------------------|
| 5/15 「軍事力がのさばる時代への備え」(中村仁) | 4/8 「新プーチン・ドクトリンは『新冷戦』の序曲か」(飯島一孝) |
| 5/7 「遅れている日本の海外汚職防止対策」(山崎正晴) | 3/18 「公的年金の『財政検証』について考える」(鈴木巨) |
| 5/6 「IMFの苦闘(1997-99年)」(池尾愛子) | 3/11 「ロシアのウクライナ戦略と将来のシナリオ」(六鹿茂夫) |
| 4/23 「『日米首脳会談』頼りないオバマ大統領との交渉術」(木村正人) | 3/1 「プーチン大統領の訪日に幻想を抱くな！」(袴田茂樹) |

リトアニアと日本

3月12日、リナス・リンケヴィチウス・リトアニア共和国外務大臣は、当フォーラムの第98回外交円卓懇談会において、ウクライナ情勢等について、つぎのとおり語った。

グルジアのときもそうだったが、クリミアでも、ロシアは、議論している間にどんどんと軍事占領を進め、すべての国境入り口を占拠し、ウクライナ軍を武装解除して、自衛軍と称するロシア軍を入れてきた。

ロシアは、1975年のヘルシンキ最終文書、1994年のブダペスト覚書等に違反しているが、議論の呼びかけに応じていない。我々に何ができるかについては、価値観や原則に基づいて状況に対して一致した評価を下し、ロシアが孤立しているとのシグナルを送り続けることが大切だ。コストを払うことになるが、行動しなければならぬ。

フォーラム活動日誌(3-6月)

- 3月1日、5月1日 『メルマガ・グローバル・フォーラム』
- 3月5日 日米対話「変容する国際・国内情勢の下での日米同盟」(James J.PRZYSTUP 米国防大学 国家戦略研究所 (INSS) 上席研究員他77名、東京にて)
- 3月12日 第98回外交円卓懇談会(H.E. Linas LINKEVICIUS氏他37名)
- 4月1日、6月1日 『GFJ-E-Letter』
- 6月3日 第266回国際政経懇話会(武貞秀士氏他39名)

現地で見えた韓国・北朝鮮の動向について

第266回国際政経懇話会は、6月3日、武貞秀士拓殖大学大学院特任教授(写真中央)を講師に迎え、「現地で見えた韓国・北朝鮮の動向」と題して開催された。

武貞教授からは、「2011年6月から2013年2月まで韓国・延世大学で教鞭をとり帰国した。朴槿恵大統領につい



ては、反日ぶりが顕著だが、金日成の『抗日革命闘争』に匹敵する経験の無い韓国人には、『大韓民国が存在する限り、反日であり続けなければならない』というプレッシャーがある。北朝鮮は日本が経済制裁を緩めることで、制裁緩和の輪が国際社会に広がることを望んでいる」との講話があった。



グローバル・フォーラム会報
2014年夏季号
(第15巻 第3号 通巻第59号)

発行日 2014年7月1日
発行人 石川 薫
編集人 高畑 洋平

発行所 グローバル・フォーラム
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2193 [E-mail] gfj@gfj.jp
[Fax] 03-3505-4406 [URL] <http://www.gfj.jp/>